

2026 年 6 月 28 日 説教資料

使徒言行録 13 : 13 ~ 25

エステル記 4 : 10 ~ 5 : 8

『 救いの計画 』

今日与えられた、聖書箇所は、新約聖書はユダヤの民だけでなくすべての人の救いについて、旧約聖書はユダヤの民の救いについてのお話です。

マタ 26:52 そこで、イエスは言われた。「**剣**をさやに納めなさい。

剣を取る者は皆、**剣**で滅びる。

イスラエルが大きな力の核に頼らないことを願います。

イスラエルでは、まだ旧約聖書の「目には目」の律法の中にいるのを実感します。

出エジプト 21:24 目には目、歯には歯、手には手、足には足、 21:25 やけどにはやけど、生傷には生傷、打ち傷には打ち傷をもって償わねばならない。

◆(12)敵対する者とのかわり

出エジプト 23:4 あなたの敵の牛あるいはろばが迷っているのに出会ったならば、必ず彼のもとに連れ戻さなければならない。

➡19 節で、ユダヤの民にカナン之地を相続させてくださったことを語ったのです。

19 節のカナン之地について、補足しますと

創 26:3 あなたがこの**土地**に寄留するならば、わたしはあなたと共にいてあなたを**祝福**し、これらの**土地**をすべてあなたとその子孫に与え、あなたの父アブラハムに誓ったわたしの誓いを成就する。

創世記に示す、神との約束と考えられます。

出 6:4 わたしはまた、彼らと契約を立て、彼らが寄留していた寄留地である**カナン**の土地を与えると**約束**した。

そして、その土地はカナン之地であったのです。

★20 節で、これは 450 年にわたる事でした。そして、21 節で、サウル王を立て➡

20 節の 450 年は、

創 15:13 主はアブラムに言われた。「よく覚えておくがよい。あなたの子孫は異邦の国で寄留者となり、**四百年**の間奴隷として仕え、苦しめられるであろう。

400 年 + 40 年 + α = 450 年・・・と考えられます。

出 12:41 **四百**三十年を経たちょうどその日に、主の部隊は全軍、エジプトの国を出発した。

「神の約束」に従ってとありますので、神の約束は、創世記の諸国民の祝福であり思い起

こす聖句は、パウロの言葉のガラテヤ書 3 章 13 節から 17 節の言葉です。

・創 22:18 地上の諸国民はすべて、あなたの子孫によって祝福を得る。あなたがわたしの声に聞き従ったからである。」

・ガラテヤ 3:16 ところで、アブラハムとその子孫に対して約束が告げられましたが、その際、多くの人を指して「子孫たちとに」とは言われず、一人の人を指して「あなたの子孫とに」と言われています。この「子孫」とは、キリストのことです。

この事柄を省かれたことは、当時のユダヤの民や神を畏れる方たちが、よく知っていた「約束」ごとだったのでしょう。使徒行伝で 13:23 神は約束に従って、と記している様に、神の救いの計画の要なのです。

そして、今日与えられた旧約聖書は、先ほどお読みしたエステル記です。

エステル記は、B. C. 2 世紀前半に書かれた書物で、物語の時代はペルシャ王クセルクセス一世（アハスエロス）BC 4 8 6 ~ 4 6 5 の頃の時代のお話です。キュロス王による捕囚解放 BC 5 3 8 年以降のペルシャでの物語です。

す。

1 6 節でエステルは、私のために三日三晩断食し、飲食を一切断ってください。断食して、願うという事は、ユダヤの神に祈る事なのです。私は王のもとに参ります。このために死ななければならないのでしたら、死ぬ覚悟でおります。」

と、ユダヤの民を救うために、死を覚悟して、召していない王に会うのです

1 7 節で、モルデカイは、エステルのいう様に、スサにいるすべてのユダヤの民に断食することを伝えたのです。

モルデカイの願いは、ハマルによる陰謀の、ユダヤ人迫害、虐殺の阻止であった。

エステルが王にそのことを訴えるあ事をモルデカイは願った。

★なぜ、ユダヤの民を滅ぼそうとしたのか？

3:5 ハマンは、モルデカイが自分にひざまずいて敬礼しないのを見て、腹を立てていた。 3:6 モルデカイがどの民族に属するのかわけられたハマンは、モルデカイ一人を討つだけでは不十分だと思い、クセルクセスの国中にいるモルデカイの民、ユダヤ人を皆、滅ぼそうとした。

憤り ハマン 満ちた & の ひれ伏す & 身を屈める モルデカイ 否定 なぜなら ハマンは 見る &

ו ראה הָמָן כִּי אֵין מִרְבָּכִי פָּרַע ו חוּה ל ו מלא הָמָן חֲמָה

כָּרַע kara` {kaw-rah'} (動詞 Qal 分詞男単)

曲がるように、ひざまずいてください、そして、お辞儀してください、

1a) (Qal)1a1) 曲げるために 1a2) 屈するには、屈んでください。1a3) 屈するために

1a4) 傾くには、傾いてください。

שָׁחָה shachah {shaw-khaw'} (動詞 Hith 分詞男単)

c) (Hithpael)1c1) 屈するには、ひれふしてください。

★3章8節以下で、ハマンに跪いて敬礼しないモルデカイに憤った為、モルデカイの民全てをハマンは迫害しようと計って、王様の承認を得たのです。

3:8 ハマンはクセルクセス王に言った。「お国のどの州にも、一つの独特な民族がおります。諸民族の間に分散して住み、彼らはどの民族のものとも異なる独自の法律を有し、王の法律には従いません。そのままにしておくわけにはまいりません。 3:9 もし御意にかないますなら、彼らの根絶を旨とする勅書を作りましょう。わたしは銀貨一万キカルを官吏たちに支払い、国庫に納めるようにいたします。」 3:10 王は指輪をはずし、ユダヤ人の迫害者、アガグ人ハメダタの子ハマンに渡して、 3:11 言った。「銀貨はお前に任せる。その民族はお前が思うようにしてよい。」

★5章で、エステルは、命をかけ王に会い、ハマンの同席を願う宴席をも用意して

➡ハマンのたくらみを暴くと共に、モルデカイによって、宦官ガンらの陰謀をエステルに告げてくれたことへの、功績として、王様の側近として使えることになる

2:21 さてそのころ、モルデカイが王宮の門に座っていると、王の私室の番人である二人の宦官ビグタンとテレシュが何事かに憤慨し、クセルクセス王を倒そうと謀っていた。 2:22 それを知ったモルデカイは王妃エステルに知らせたので、彼女はモルデカイの名でこれを王に告げた。

8:11 こうして王の命令によって、どの町のユダヤ人にも自分たちの命を守るために集合し、自分たちを迫害する民族や州の軍隊を女や子供に至るまで一人残らず滅ぼし、殺し、絶滅させ、その持ち物を奪い取ることが許された。

こうしてハマンの企てた、ユダヤ人を殺す計画は、王命によって亡くなり、ハマンは処刑された。

ユダヤ人モルデカイの^{ひざまずかない}跪かない行為から民族全体の迫害に及び、モルデカイによる一人の王さまへの忠心という神の目に正しい行いが、ユダヤの民を迫害から救う事になったのです。

これは、神のアブラハムの信仰を認めたことに重なりユダヤの民を迫害から救ったのです。

しかし、新約聖書では、使徒言行録 13 章 22 - 23 節、ダビデ以降のイスラエルの民の子孫による信仰が認められず、すべての民の祝福を力や財力に頼る、ユダヤの民の子孫では、すべての人を祝福することは出来なくなったので、神は御子イエス・キリストの十字架によって、すべての民の罪を贖い、エルサレムの神殿は破壊されてしまったのです。